

ニホンジカを目撃情報を集めています

近年、裏磐梯でもニホンジカを目撃が増加してきています。
まだ、個体数としてはそこまで多くないと思われますが、
このままニホンジカが増えれば、様々な問題が発生すると予想されます。
裏磐梯でニホンジカを見かけた際には、ぜひ情報をお寄せください！

ニホンジカはこんな動物



オスにだけある角は、早春に抜け落ちて生え変わります

夏毛は赤茶色で白い斑点があります

冬毛は灰褐色で模様はありません

お尻の白色が目立ちます

カモシカとの見わけ方



- ・シカではなく、ウシの仲間です。
- ・カモシカの角はメスにもあります。この角は生涯抜け落ちません。
- ・お尻に白いもようはありません。
- ・単独で行動することが多いです。
- ・人が近づいても動かず、じっとこちらを見つめることが多いです。



声も頼りに！

←こちらの QR コードからオス鹿の鳴き声が聞けます

シカが増えるとどうなるの？

- ①農林業被害が発生します
- ②生活被害や人的被害が発生します
- ③自然植生に影響が出ます



目撃情報についてのお問い合わせ

NPO 法人裏磐梯エコツーリズム協会

TEL:080-2827-1687

ウェブサイト→



磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター

〒969-2701 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰 1093-697

【電話】0241-32-2850 【FAX】0241-32-2851 【ウェブサイト】<http://www.urabandai-vc.jp/>

裏磐梯だより 2026 年 9 月 No.137 [企画・発行] 裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会



HP



X



Instagram

裏磐梯だより

No.137

2026 年 9 月



磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター



自然解説員の巡視日記

西大嶺・西吾妻山

裏磐梯図鑑 No.52

見分けにチャレンジ
秋のアカトンボコレクション

ようこそビジターセンターへ

展示紹介 — 図書コーナー —

「曲沢沼の紅葉」

リフレクションがとても美しい沼です。夕焼けに照らされた紅葉はまるで絵画のよう。

※路上駐車は禁止です。沼周辺に駐車場はありません。

最寄りの駐車場は「休暇村多目的広場」になります。

自然解説員の巡視日記

にしだいてん・にしあづまやま 西大巔・西吾妻山



▲2016年9月25日 西大巔山頂より
山頂からは猪苗代湖・秋元湖・小野川湖・桧原湖・雄国沼の5つの湖沼を望むことができます

天気の良い日は、裏磐梯ビジターセンターの窓から二つ連なった山が見えます。山腹にあるスキー場（グランデコスノーリゾート）がまるでナスカの地上絵のように見えるため、来館されたお客さんから「あの山は何ですか?」と聞かれることも多い山です。スキー場がある山は西大巔（にしだいてん）、そのすぐ隣にそびえるのが西吾妻山（にしあづまやま）です。どちらも日本百名山「吾妻山」を構成する吾妻連峰の山で、磐梯朝日国立公園の一部でもあります。

西大巔の標高は1,982m、西吾妻山は2,035m。秋になると、標高の高い山頂付近から木々が色づき始め、少しずつ紅葉が麓へと下りてきます。ビジターセンターの窓からはその変化を毎日観察できるため、秋がやってくるカウントダウンを受けているようで、ドキドキわくわくします。

登山道を歩くと、ブナなどの落葉広葉樹だけでなく、オオシラビンなどの針葉樹も多く見られます。山頂付近では、ミヤマリンドウやイワイチョウ、チングルマなど、麓ではなかなか見ることのできない高山植物にも出会えます。すぐ隣の磐梯山とはまた違った植物を観察できるのも、この山の魅力です。

そして、西大巔の山頂から振り返ると、普段見ている裏磐梯の景色を山の上から見渡すことができます。

天気の良い日には、裏磐梯の3つの湖だけでなく、猪苗代湖や、少し標高の高い場所にある雄国沼も望むことができます。山の上から眺めることで、磐梯山周辺の森や湖がどのようにつながっているのかを、より身近に感じることができます。

毎日眺めている山だからこそ、季節によって変わるその姿を、実際に歩いて確かめてみたくになります。みなさんも今年の秋は、いつも眺めているあの山へ、足を延ばしてみませんか。



▼2016年9月25日 西大巔山頂付近の紅葉



◀ビジターセンターの窓から
西大巔山頂を撮影!
登山者の姿も見えるかも?



裏磐梯図鑑 No.52

見分けはチャレンジ

秋のアカトンボコレクション

参考 尾園暁・川島逸郎・二橋亮、『日本のトンボ』。文一総合出版：2012。



▲アキアカネのメス
アカトンボの多くは、メスと未成熟なオスは黄色いが、
成熟したオスは赤くなる

秋といえば赤とんぼ

秋のイメージを持つ方も多い「赤とんぼ」。童謡にも登場する身近な生きもののひとつです。

ところが、「アカトンボ」という名前のトンボがいるわけではないんです。オスが成熟すると赤くなる種類が多いことから、トンボ科アカネ属の仲間をまとめて「アカトンボ」と呼んでいます。

裏磐梯でも、夏から秋にかけてさまざまなアカトンボを見ることができます。

一見するとよく似ていますが、体の色や模様、ハネの柄などをよく見ると種類を見分けることができます。

今回は、そんなアカトンボの見分け方をご紹介します。

なお、アカネ属以外にも赤くなるトンボがいます、赤いトンボ=アカネ属ではないので、ご注意ください!

▼アキアカネ



▼ナツアカネ



▼キトンボ



▲マユタテアカネ



▲リスアカネ



▲ノシメトンボ

ようこそビジターセンターへ

展示紹介 ― 図書コーナー ―

Welcome

レクチャールームの一角にある図書コーナーでは、畳に寝そべりながら、生き物や地学についての本を楽しめます。

絵本もたくさんあるので、小さなお子様も大歓迎です。

クッションも用意しているので、ゆっくりくつろぎながらお気に入りの一冊を探してみてください。

散策の前に自然について調べたり、散策の後に見つけた生き物を調べたりするのもおすすめです。



▲図書コーナー